

おりがみイースター 【柴田常雄】

2014年4月18日（金）

母の90歳の誕生日に、母に感謝をこめて

【うさぎの手紙】



“13日の金曜日”は悪いことが起こる日って言いますよね。イエス・キリストが十字架に掛かって死んだ日だからって。

一番悪いことってなんだろう。ケガ・病気・災難…、でも究極のところは死んじゃうことかな。死んだらすべてが終わり、しかもきつと痛くて苦しくて…。でも生きている間も苦しいことってたくさんあるし、全然生き活きしていなくて、死んだように生きてるってことってない？若くても様々な痛みや悩みをかかえているよね。

私は小学校6年生の夏休み、国語の課外授業で本を朗読するように言われて、突然どもりだしました。中学校・高校・大学・社会人となっても、吃音はひどくなるばかりでした。

そんなある日、教会での特別集会で講師の牧師先生から祈ってもらいました。翌朝、目覚めると“立て板に水”のように言葉がでてきました。その時「心の中に人への恐れがあったこと」「それが、今なくなっていること」に気が付きました。神様が生きておられることをその時、実感したのでした。

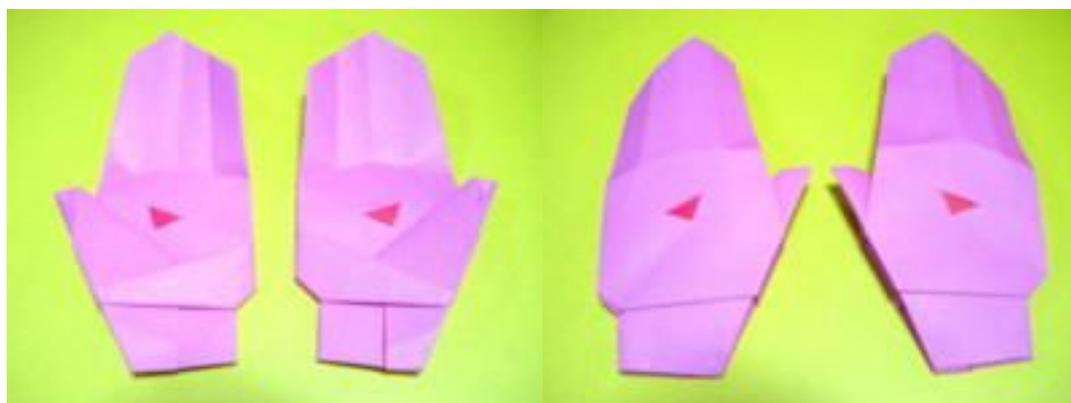
他にも、日々ついている嘘、人へのねたみ、憎しみ、悪意、悪い言葉や行い…、私の中にはたくさんの真っ黒いもの・暗闇の世界がいっぱい。

聖書に「罪が支払う報酬は死です」(ローマの信徒への手紙 6 : 23)、「また、人間にはただ一度死ぬことと、その後に裁きを受けることが定まっている…」(ヘブル人への手紙 9 : 27)とあります。

ここに、莫大な借金を抱えて苦しんでいる人がいるとします。でも、そこに大金持ちが現われて、彼を憐み慈しみ、彼の代りに全ての借金を返済してくれたなら…。彼は借金の苦しみから解放されて、全くの自由の身となります。

これが、イエスさまが十字架に掛けられて死なれた意味なのです。死ぬべき罪に苦しむ私たちの身代わりに罪なき神の御子が死んでくださった。それは私たちを罪の苦しみから解放し、(本来神様が私たちをお造りになったのですから)神の子(神さまはお父さん)として自由に喜びをもって生きるようにしてくださるためだったです。

【イエスさまの手】



【十字架の愛】

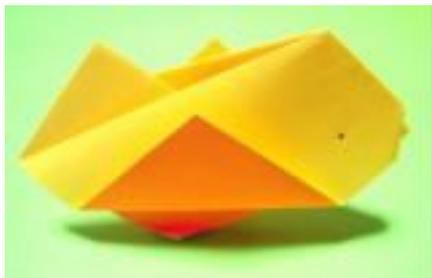


「神は実にそのひとり子を賜うほどに世を愛された。」(ヨハネによる福音書 3 : 16)

そうすると ” 13 日の金曜日 ” は世界で最高の良いことが起こった日ではないでしょうか？聖書が土台の西洋では Good Friday (有難い金曜日) と呼ばれています。

金曜日に十字架上で死なれて、日曜日の朝イエスは墓からよみがえられたのです。私たちにも、死に支配された人生から復活の生命にあふれた人生への道が開かれたのです。

【イースターのヒヨコ】



教会ではイースターの日、エッグ・ハントが行われます。ウサギもこのエッグハントに登場します。卵は復活の生命の象徴です。卵からはヒヨコが生まれます。まさに新しい生命ですよ。

イエスさまによって新しい生命を与えられ、それを喜び祝う、それがイースターの日です。皆様の上にも神様の祝福が豊かにありますように。

God Bless You ! God be with You !